

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	第5回旧本郷第一小学校跡地利活用検討会
開催日時	平成31年3月2日（土）13時30分～16時00分まで
開催場所	会津美里町役場 本郷庁舎 ふれあいセンター1階
出席者	<p>【跡地利活用検討委員：11名出席】</p> <p>出席 松村 茂、弓田修司、齋藤勝美、柏村 翔、渡部一也、 齋藤良七、佐藤信寛、石橋史敏、竹内樹美、水谷加奈、油谷文恵</p> <p>【事務局】</p> <p>総務課 鈴木総務課長 平山課長補佐 大竹財政係長 五十嵐主事 まちづくり政策課 小川まちづくり政策課長 小林課長補佐</p>
議 題	第4回検討会開催内容確認、利活用案について 他
資料の名称	別添資料
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内 容	
<p>【委員長挨拶】</p> <p>【議事】</p> <p>議事に入る前に欠席した西田委員の意見について、佐藤信委員代読</p> <p>1) 第4回検討会開催内容</p> <p>（事務局）第4回の検討会で提案された意見について説明。</p> <p>2) 利活用方針の検討・とりまとめについて</p> <p>（事務局）進め方について説明。前回のグループで提案した意見について再度確認し、前回までに出された意見を踏まえ、グループごとのキャッチフレーズ、理念を考えてまとめる。各グループの理念を発表した後、一つにまとめていく、ことで進めていく。</p> <p>（委員）町民向けのワークショップの開催について要望する。</p> <p>（委員長）利活用案の検討後取り上げることとしたい。</p> <p>全員了承</p> <p>（委員長）竹内委員作成の図面について説明願う。</p> <p>— 竹内委員が作成した図面について解説 —</p>	

(委員長) では前回のグループに分かれ、提案したイメージにキャッチフレーズをつけるため討論をお願いします。

————— 討 論 —————

【発表】

第1 グループ

- ・キャッチフレーズは「おしゃべり子育て広場」。子供や子育て世代を中心として、幅広い世代の人たちが集うことのできるコミュニティの場。
- ・人口減少の抑制、地域の賑わい創出のためには、人が集まる場があるということがとても大事。
- ・人を集めるためには、集まるきっかけや仕掛けが必要になる。
- ・例を挙げるとすれば、子供が安心して思い切り遊べる場所や、年代を越えて使えるイベント広場。
- ・今の時代、地域に求められているのは人と人がつながり、そこにコミュニティを生み出すということ。
- ・コミュニティの場とするのであれば一日を通して使えること、年間を通して使えること、それから老若男女誰でも使えることが必要ではないか。
- ・自然に触れ四季の移ろいを感じることができるよう、池や木々を整備していきたい。
- ・子供を中心とした賑わいを創っていくという一つの大まかな流れはできたと思う。

第2 グループ

- ・キャッチフレーズは「衣・食・住+遊+学=賑わい」
- ・第1グループとの大きな違いとして、住宅や店舗のスペースがある。
- ・この施設としてのスペースは、住宅や店舗としての空間プラス α の意味合いを持っている。
- ・施設を造り、防災施設や避難所としての役割を担わせることはできないか。
- ・基本的な店舗の活用法としては、お年寄りや子供が集まることのできるコミュニティ施設。
- ・芝生の公園広場としてのスペースもマルシェを開いたりして、楽しく交流を図ることができる場として検討してみた。
- ・池も陽の当たる南側に移設して、ビオトープとして活用してみてもどうか。
- ・もう一つ第1グループとの大きな違いである、東西へ走る道路については、店舗を開くのであれば車で乗り入れるための道路はどうしても必要である。
- ・しかし子供を自由に思い切り遊ばせるためには、安全性についても検討しなくてはならないということでスピードを抑えて運転してもらえような道路を整備する必要

がある。

- ・我々の理念としては「防災」と「賑わい」。
- ・人々が集える場所。そういった場所を増やすことによって賑わいが生み出される。この部分については第1グループとも共通する認識。
- ・では、その管理や運営は誰が担うのか。その問題を解決するために店舗や住宅を整備して、入居してもらった人たちに任せてみてはどうか。
- ・地域の賑わいを興す、ということは今後何をやるにしても大事な部分になってくると思う。
- ・衣食住という生活するうえで必要な部分については、跡地以外の本郷の中で考えてもらうとして、それ以外の遊びと学びの部分プラスしていくことによって、この土地から賑わいを創出していくというのが我々の基本的な理念・コンセプトである。
- ・またこの計画がもし失敗してしまったとしても、有事の際に人、生活、命を守っていくための施設が必要ではないか。
- ・基本的な考えは、人に集まり、お年寄りも元気になって、子供たちも地元に残ってくれるような魅力あるまちづくりを進めていくとなったときに、軸になるのは賑わいの創出なのではないか。

———質疑応答———

(委員) 誰のために作るかという基本的な話ではどんな話が出たのか。

(委員) 住民のためというのが一番。他の地域の人々の為とかは考えていない。何故かといえば町の土地だから。

(委員) そこでいう住民は赤ん坊から年寄りまで全てか。

(委員) そのとおり。当然赤ん坊のことも老人のことも考えている。子供たちがより自然に遊べるような雰囲気を作った方がよいのではという形で、話をさせていただいた。

(委員) 住宅地を、というような部分があったと思うが、実は西会津町で若者定住向けの住宅を元の保育所跡に作るという計画が出ているが、場所が保育所だったという思い入れがある場所ということで地域住民とのトラブルがあり、今問題になっている。今回も他に代替地があると思うためそこに作らなくてもよいかと思う。

(委員) 作る必要はない。先に説明したとおり、ここは限られた人々への住宅とすればいい。地域の人たちのために活用するものではなくて、実際に住所をこっちに異動したらその住民のための土地と考え、むしろ住宅という部分に関しては別に無くてもいいか、と思っている。それは現時点で空き家とかがあるから、ということで話させていただいた。その中で、コワーキングスペース的な設備を設けて、集える人たち、特に産業に関わる人たちの住宅という意味合いで考えたらどうですか、という説明はさせていただいた。そのため当然のことながら地域の人たちを優先すべきだという議論の

なかで話をすればそうになってしまうが、果たしてそれがベストとは正直思っていない。このエリアで言えば、黒川なんかはもうどんどん人が入ってきて、そんなことを言う余裕も無いような状況にある。ましてや町の中は空きスペースがどんどん無くなりこのまま放置していけば、住民が減るということは当たり前の話になってくるため、考えたときに自分たちとの「思い」と、もう一つ大事な「責任」をどこに置いているのかということで話をさせていただいた。「思い」ですずっとやると、やった結果運営を全部町に頼るといような形になってしまっているのかということだ。それをまったく議論しないうちにそういうふうな形になっていることを恐れている。そのため嬉しかったのは運営を民間・NPOにというような話があったことは、非常に今まで話してきた中で、非常に大きなところかなと思っている。

(委員長) それぞれの意見を一つにまとめるため、全体でグループワークを収集することにする。

——— 全 体 討 論 ———

(委員) 一番大事な部分で考えれば、いろいろ考えて作ったときに、形になればいいが、ならなかったらどうするのというのが一抹の不安だった。そのときに必要な施設として、防災の施設はあるだろうと。防災というのは今後必ず必要になってくるころだから、それを生かした上でこっちの店舗や建物についてはもう少し考え方を検討していかないといけないという結論が出た。でも一番基本となる部分は賑わいを創るといところ。コミュニティというのは、別段あの人とこの人と規定して関わるは必要ない。東京の人であれ、若松の人であれとにかく人が集まりそこで会話を発生させて、思いを共有するのがコミュニティだと思うのでその思いを共有させることをこういったところに参加している人たちがその基本的な考えを持って、事を図っていけば自然そういうものが出来上がるのではないかなと思う。それで、そこに人ができれば町内の人だって当然参加していこうし、そういった形になっていくのではないかなというふうに思っている。いかがか。

(委員) 多目的というか、多用途で芝生の広場のようないろんな形で使えるようなスペースを確保しておくというのは賛成である。イベントマルシェというのはどういう風に運用して行くのか。

(委員) 別に建物のようなハード的なものは必要ではなく、ハード的なものが何かといえばそれは広場。あとはテントを立ててやればいい。そこに例えば防災施設でありながらも防災ではないときは機能的に使えるような施設があれば、当然それは利用価値のあるものとして町民の皆さんにも大切な税金を負担してもらって建てるわけだから、ご理解いただけるだろうと考える。ただ店舗側とか住宅側に人が入らなかったらどうするのかという問題は出てきていたので、もう少し検討していかなければならな

いと思う。それで、道路もそうだが道路一本引くことによって、安全性というものはどこで担保するのというところを話したときに危険なところに賑わいなんか創出できない、実際は賑わいのあるところにも危険性はあるかもしれないけど、そこに我々が着手していかなければ、親の責任だとかそういったところをないがしろにして事業を始めようと思ったとしてもなかなか難しいのではないかなど。そういった責任を分担していただきながらこういった形でやっていったほうが良いだろうということでお話をさせていただいた。

(委員) この広場のことについては大体共通しているというか、こういう風に利用したいというのが出てきたと思う。その中で私はこの住宅についてはなかなか地域の人の理解を得るのは難しいと考える。つまり他に土地があるだろうというようなことと、ここに道路を引くということは狭くなってしまうということと、この道路が本当に必要なのかわからないから。

(委員) 道路は必要である。

(委員) この住宅地とこの道路は、私はそれよりは発表の際も言ったように子供が精一杯遊べる空間がやはり欲しいと思っている。そして子供が集まればいろんなものができる。それで先ほど本郷のいいところは水だ、林だ、等色々言ってきて同じだなど思ったのはビオトープ。そういったところを含めたような、子供が自由に、精一杯遊べるような空間を取りたいと思う。そこはぜひ実現させたいと思っている。

(委員) それはあなたの思いか？

(委員) そうだ。

(委員) あなたがそういう風に思っていることは我々も思っている。だから絵面だけ見てここが狭いからこっち必要なのかどうかという議論をしていたのではなんの解決にもならないと思うが。

(委員) どういう風にとるかは別にして、やっぱり子供が精一杯遊べる…

(委員) これだけのスペースがあるというところを認識していただけないのかということだ。我々も同じこと考えている、同じこと言っているという形の中でこれが絵面的にこれぐらいのスペースになる可能性だってあるわけだ。それは子供たちが遊ぶスペースがどれだけ必要なのかということだ。それにより我々の意見は取り入れられないでつぶれてもいいのかということだと思う。そのせめぎあいをしましょう。それが方針作りじゃないか、と考えるが。

(委員) どこにどれだけスペースを作るかは別である。それはお互い言っているとおり。ただ子供が精一杯遊べるようなそういった空間をきちんとつくるべきだと。

(委員) どれぐらいの空間が必要なのか。子供が精一杯遊べる空間はどれぐらいの空間が必要なのか。そこを明確にしていけないといけないと思う。

(事務局) 参考としてはかつての校庭とほぼ同じ広さである。

(委員) 我々だってそういった空間は設けている。

(委員) 私がワークショップという話をしたのは、子供自身に聞いてみてもいいのではないかと考えたからだ。子供自身にここが公園になったらどんなものがほしいのかと子供に返すわけだ。そしたら子供から返ってくる、それに応じてこの全体の敷地の中のここにあってほしいのではないかということをやれると考える。やはり今の子供がどういう考えをもっているかということを知らないと、どこにどんな風に、広さとかそういうのは言えないと考える。

(委員) その意見は非常に大事な意見だと思うし、そういったことは必要だと思う。しかしそれで子供がこうしてみましようと言いつつここが原っぱに全部になりました。防災施設も何もない状況で原っぱになりました。果たしてそういった形で成り立つのか。子供の意見として聞いて、子供の意見に対して否定的な意見を誰が言うのか。子供たちにこうやったけどできませんでしたというのか。それが大事なところだと考える。

(委員) それは極端だ。

(委員) 極端ではなくて、そういうものが今全国的に出てきているのだ。子供の意見を聞くというのは大事。ただ、子供に意見を聞いたものを大人がまとめてあげないと駄目。そこをまとめるときに極端な意見を言う子供もいるわけだ。その子供が疑問を持ったときに説明しなければならないと思うのだが。

(委員) そういう子供の意見を踏まえながら、私たちが方針を決めていくことだとは思っている。

(委員) その意見がまとまるのはいつか。だったらそれを先にやったほうが良かったのではないかな。ワークショップを開くにしても、どこでやるのか。

(委員) だからそれを今日の議題の中に入れてはどうか、という意味だが。

(委員) 議題の中でやる・やらないと決めたら意見として聞いてもらえるのか。

(委員) それは子供たちに参加してもらって…

(委員) 参加してもらう前に、我々で決めるか決めないかという議論が大事だということか。

(委員) 全部を私たちが決めるということではないと思う。

(委員) だとしても、我々の総意として子供たちから意見を聞いた方がいい、というのであれば聞くことも考えられるが。

(委員) 物を聞くのも子供たちだってそうだが、例えば小学校の跡地をどうするのか、と聞くのか。どういう風に聞くつもりか。どういう風に子供たちに問いかけようとしているのか。そこを伺いたい。子供の意見を求めることには賛成である。ただどうやって聞くのか。

(委員) 跡地について我々は話し合いをしているが、みんなはここでどんな遊びをしたいの?と問いかける。

(委員) それが具体的に何を作るといって具体的なものになった時に、「俺はこれ言ったけどできなかった。」、「お前これ言ったけどできなかった。」ということは言っている。

くる子供はいるわけだ。それを大人が聞いて大人の解釈の中で物事を決めてそのままやるっていう、それを聞いて子供たちの意見としてやるという形になるのか。

(委員) 子供たちからどんな意見が出てくるかは分からない。分からないから聞くと全体的に説明すると思うが、跡地はいろんなことでやっていくと。それで、みんなの考えとしては子供の遊び場としては作りたいと思うけれどもみんなはどんな風にして使いたいと思うということで、子供たちから出せばいいと思う。

(委員) 出せばいいと思うが。子供から出す方法としてはいろんなやり方があると思うが。大人はこういう分に考えているけど、君たちはどう思うという出し方でもいいと考える。そのほうが今、大人の人たちがこの会議の中でこう考えているけれども、どう思う？という考え方のほうが、意見を頂くのであればその方が早い。その辺のプロセスがしっかりしていないと、単純に小学校から意見もらったほうがいいたろう、30歳から40歳から意見もらったほうがいいたろうという部分は、非常にまとめとして難しくなる。それで、アンケートというものにはどのような方式を持ってくるかという、統計学も全部含めて回答しなければならない。全部含めて検討するところには、統計になるように、ある程度の目的とか物とか全部入れて言わないと子供たちが答えようがない。みんな任天堂のゲームと書くからだ。こんな広場要らない。残念ながら実際のところそれがもう見えている。そういうところがいっぱいあるのでアンケートできるのであればしたほうがいいと思うが、ただそういったところも大人としてきちんと管理してやっていかないと駄目だ。そのためには大人の意見をちゃんと出して、子供たちに否定を受けることぐらい覚悟してアンケートを出していかないとまとまらない。何をやっていいかなんてさっぱり分からない。我々が最初に集まったときと同じになってしまう。そこを安易にアンケートすることが、実は私は危険だと思う。

(委員長) 今日は理念ということで議論をしてもらおうということだったため、アンケートする、しないの議論はまたちょっと別の機会にしたいと思う。理念というのは言葉なので、ちょっと詰めていただきたい。聞いている限り、言葉は一緒だ。先ほど子供はどのくらいの面積を欲しているのかという話があった。14,000㎡が必要なのか5,000～6,000㎡でいいのかというのは議論があるとは思いますが、理念としては子供がのびのび自由に創造的な遊びができるような広場空間や芝生であったり、そういった空間が必要だという意見については同じだったので、理念は一緒だったということによいと思う。そういうことから、その理念を盛り込んで共通の部分はあった、と思う。むしろこれがいない、ということをおっしゃらなくても必要な面積が取れば、残してもいいということかと。そう私には聞こえたが。そのためそういう意味では必要な言葉をいれていったらいかがか。

(委員) 我々はさっき言ったように衣食住というのは元々本郷にあるものだろうということで遊び、学びを入れたわけである。それで、それがイコール賑わいにして一番足りないと思っているのは、皆さんから前々から意見いただいている産業。防災は形で、

施設に防災という理念を形で見せられたらいいかなと。そういったときに理念って賑わい創出だけれども遊・学という部分に産業をどういう風に入れていったらいいかなというのが実は今の我々の悩み。入っていないのにといったら語弊があるが、産業従事者用住宅とか産業的なものいっぱい入れているので、そんなところかなという風に思った。芝生の広場に関してはお互いに言っていること一緒だし、これ以上議論を重ねても設計的な議論になっていくのではないかと思って。

(委員) 先ほど発表いただいた中で、産業の振興は喫緊の町の課題だと、第2回のときも委員から発言がありましたが、これは切実な課題だと。ただこのスペースで、それを確保したから後継者育成とか人口を増やせるかといったら実は別な課題があって、魅力作りとか人をどう呼び込むかその方のつながりが大きな課題になってくる。さっきリスクについても話していただいたけれども、結局ハコモノは造って予定したとおり人が来れば活かせるけれども、単なる芝生の広場と違って相当コストがかかるわけだ。コストに対して予定した計画通り進まなかった場合のリスクがある部分は、要検討課題だとお話された。だから他の部分とリンクするようなものがずいぶんあるというのは見えてきた。

(委員) 竹内委員の方でこれを作っていたら、正直極端な自分たちの思いを形にさせていただいたところはあると思う。実際に竹内委員も道路挟んだほうがいいけど、安全性とかそういった部分に関しては、今後も検討していくところがある、とおっしゃっていた。それは必要だということ。それからさっき言った店舗とか住宅とかについてもやっぱり今後検討していくことが必要である。先に言ったとおりこれが本当にきちんとなったなら人が来るけど、人が来なかったらどうしようというところにハコモノ建てていいのという部分があった。そういったときに我々が考えてこういったハコモノを立てた。でもこのハコモノは商売をして、それで賑わいを創出するための目的でもあるが違う目的もしっかり有した上でやる、というところがやっぱり必要じゃないかということでそれを防災っていう形の中で、これは必要なものだろうという位置づけの中でやったので例えばそこにいろんなものを集約することも可能だと思う。さっきも実はハコモノを作るのではなくて、遊牧民が使うようなゲル使って建てたまにレイアウト変えながら一つの店舗と見立てていろんなレイアウト変えてしょっちゅうリノベーションするような形の中でやれたら面白いよねという話をした。先ほど言ったのはそういうものも含めてまだまだ検討の余地はあるということ。

(委員) 今おっしゃった遊び感覚も今必要なところはあると思う。がちがちに固めていくと堅実性はあるかもしれないが、今特に若い人たちには遊び感覚の要素が大切な部分だと。もちろんそれに対してはコストパフォーマンスも考えなきゃならないと思うが、そういうがちがちなイメージではなくて、今、面白い発想だと思うけれども、その面白い発想を否定すると議論が深まらないと思う。それから子供たちに問いかけるという意見に補足すると子供たちに安易にアンケートをとるのは危険ですよというの

は同じ考え。ただ子供に発想させるというのは最終的にも遊び場を使うのは子供なので実際そういう風にして成功している自治体があるわけだ。どういう遊び場だったらあなたたちは遊びたいかということで子供たちにアイデアを出させて、それを形にしたのが園芸業者である。それで遊び場を作ってその運営管理を子供に、しかも小学生に公園部長という辞令を出すなどそれでやって賑わいづくりにつながって他の自治体からもそういう公園があるところだとあそこの村は舟橋村というところだけれど良い村だから行って住みたいという人が増えた。実際この村は20年間で人口が倍増している。だから結局何が言いたいかという、やっぱり何回も言っているけど基本的な理念・コンセプトをきちっとして発想を例えば子供に発想させるというアイデアをさせることが大切だということ。大人がこれやるからあなたたちはこの枠でなんかやれというのは、見てくれはカッコいいけど誰も来ない。子供が集まれば当然大人も集まる。

(委員) おっしゃることは良く分かるし、その通りだと思う。理念というものはその部分もじゃあ理念に入れたらいいのではないかと、ということだと考える。これを決めるあれを決めるって、前々から言っているとおり検討会はこのエリアをどうするかという理念の中でやっているわけである。そのなかでどういった提案としてやっていくかということであるとすれば、このスペースを大きくする小さくするなんていう議論は正直ここでする必要なんか無い。このスペースを子供たちに与えるから子供たちに自由にやらせたらいいでしょう、子供たちに運営させたらいいでしょう、そういうことが理念だというのならその理念を入れていただければいいのではないですかということだと思う。我々が言っていることは、理念を作らなければならぬといった形の理念ではなく、皆さんが持っている理念をみんなでまとめましょう、というのがこの会での理念になるということ。その会での理念というものはもう散々こうやって皆さんと話したりして聞いている。その理念というのが賑わいだろうと、子供だろうというのは我々も十分理解している。それなのに理念、理念といわれても、我々どうすればいいのか。

(委員) 今それを言葉で整理しようということだろう。

(委員) 理念についてはお話を頂戴したとおり、そういったことでいいと思う。活かし方はこれを事業として計画していく中でどんな形だって変えられると思う。そこに我々がないと、さっきおっしゃった説明責任があり、責任を果たしていくためにもって言われたら、がちがちにしかならない。間違っちはいけない。あれやっちゃいけないという話になってしまう。だからそうではなくて、元に戻ってその辺を入れていかないと難しいのではないかと。どういう風に取り扱うかということだけで話をしているかないと、中々形にならないと思う。

(委員) 先ほどの補足したものは、芝生の広場全体を子供にゆだねるのではなくて、遊び場のスペースの話かと。

(委員) そこも子供たちに全部任せればいいのでは。草刈り水撒きやらせたら管理す

る必要なくなる訳ですから。我々はそういう考えている。子供たちに委ねる。その代わり好きなことやっていいよ。危険がない状況の中でやっていいよ。自由にやっていいよ。その代わり草刈って、水撒いて、というような形でやったらいいのでは。我々はそこまで否定しない。ただ何回も理念という話をしているので、我々はお二人からずっと理念を受けている。ああではないか、こうではないか、と。親たちのコミュニティ、お年寄りのコミュニティ、賑わい創出、産業振興、ずっと頂いている。それをあえて我々はその思いを形にして、結局理念を含めたテーマを作って出すと言ったら結局一緒になって当たり前であるとしたら我々思っていなかった。だから我々が確認したかったのは初めてきた人がどこまで我々の考えを理解して説明してくれるのかなとなったときに、発表の際スムーズに説明してくれたので間違っていなかったなといった風に思ったわけだが。

(委員) 防災施設と銘打っているがこのスペースでは大した施設にはならないのではないか。

(委員) 避難所として使用するならば、確かに狭い。ただ、施設を建てるのであれば、本来の目的プラス災害時に機能する設備を作る必要があるだろう、ということでお話させていただいた。

(委員長) 食料品や防災グッズを保管しておくスペースとしても使えるということか。小さいなりに用途はあると。

(委員) その意見には賛成だ。あとはやはり遊びの部分が重要だと思う。

(委員) 子供たちが遊ぶのも大事だが、大人たちも遊ばせてほしいという考えもある。

——その他委員——大人も遊ぶ場所ということに同意。

(委員長) それでは共通して認識していた、

- ・本郷地区に賑わいを創出するための場所にしたいということ
- ・コミュニティを形成することができる場所にしたいということ
- ・子供が自由に遊べる空間があること

この3つの理念を検討会の跡地利活用方針として位置づけていく。

3) その他

(委員) 町民全体を対象としたワークショップの開催について要望する。検討会での方針を町民に向けて説明すべきである。

(委員) 検討会での役割は利活用案を検討することであり、それを町民へ説明するのは行政側の仕事ではないか。

(委員) 今まで我々が検討してきたことと同じことを一般町民にも検討させるということであれば、今まで我々が議論して積み上げてきたものは一体どこへ行ってしま

のか。跡地をよりよいものとして活用し、地域や町の賑わいを生み出そう、ということで3つの理念が皆の共通認識として出されたのだから、それでここは締めるべき。

(委員) それでは我々が町民に向けて説明ができない。委員として選ばれたからには、説明責任があると思うが。説明の場を設けるためにもワークショップは開催すべきと考える。

(委員) 我々の仕事はあの場所をどのように活用していくかを考えることだと思う。3つの利活用方針が定まったのだから、これを基本にあの場所を整備するのか、それともまた別の意見を集めるのかは我々が判断するべきではないと思うが。事務局も今までずっと我々と一緒にいたのだから、気持ちは伝わっているはず。我々の意見は我々の意見として取り上げてもらい、その後どうするかは、町の判断に委ねたい。

(委員長) それでは議論の結果、検討会としてのワークショップや説明会は行わず、検討会の方針を町へ提出した後については、行政へ任せることとする。

(事務局) 予定では今回で最後の検討会ということだったが、より具体的な方針を決定していくため、今後も必要に応じて検討会を開催していく。

閉会